



虫干祭で熱演 徳丸一座第17回公演

徳丸一座(八城秀樹座長、35人)の第17回公演は8月2日、高忍日賣神社に設けられた特設舞台で行われ、大型時代劇「名月赤城山」全三幕を上演、会場を埋めた観衆から、拍手喝采を浴びました。

この日のために約2カ月の練習を重ねてきた座員たち。キャストはプロ顔負けの熱演をし、音響、照明などを担当するスタッフは芝居に合わせて舞台を彩り、観衆を魅了しました。

芝居終了後、主役の「板割の浅太郎」役を務めた弓立計太さんは「キャスト、スタッフ、地域の皆さんに支えられて、なんとか演じ切ることができました。徳丸一座をこれからも温かい心で見守ってください」と感謝し、充実感に満ちた表情を見せていました。



①芝居の終盤。観衆を魅了 ②主役の板割の浅太郎 ③本格的な手作り舞台で熱演 ④挨拶する座員



地域防犯に活躍します 松前町防犯相談所長

松前町防犯相談所長委嘱式は7月19日、松前町庁舎で行われました。防犯相談所長は、伊予警察署と松前町防犯協会の連名で委嘱されたボランティアとして、地域の安全安心を確保します。任期は24年7月1日から26年6月30日まで。

式では、代表の3人に富田雅重伊予警察署長から防犯相談所長委嘱状が手渡され、白石勝也松前町防犯協会長が「犯罪のない、明るく住みよいまちづくりに力を貸してほしい」と挨拶を述べました。

| 地区名 | 氏名 | 住所 | 電話 |
|-----|-------|-----------|----------|
| 南黒田 | 島田 昌則 | 南黒田 525 | 985-1266 |
| 北黒田 | 井上 正男 | 北黒田 527-4 | 984-5075 |
| 〃 | 武本 高尚 | 北黒田 400-5 | 984-8152 |
| 〃 | 頼藤 哲也 | 北黒田 642-6 | 985-0230 |
| 〃 | 山内 慎治 | 北黒田 635 | 984-3248 |
| 宗意原 | ◎眞鍋 好 | 筒井 1264-3 | 985-1561 |
| 〃 | 兼岡 伸次 | 浜 922-4 | 984-5203 |
| 新立 | 鶴田 清 | 浜 490-1 | 984-4152 |
| 〃 | 稲田 健 | 筒井 541-10 | 984-3147 |
| 本村 | 中島 保榮 | 浜 297 | 984-0659 |
| 筒井 | 常盤 勝利 | 筒井 258 | 985-1130 |
| 〃 | 宮本 賢二 | 筒井 454-19 | 984-9081 |
| 〃 | 鮎矢 貞一 | 筒井 247 | 984-8020 |
| 社宅 | 高尾 大介 | 筒井 1455 | 984-7626 |
| 徳丸 | 谷口 圭祐 | 徳丸 128-8 | 984-0047 |
| 中川原 | 加藤 賢司 | 中川原 970-2 | 985-0438 |

◎は支部長

| 地区名 | 氏名 | 住所 | 電話 |
|-----|--------|-----------|----------|
| 出作 | 泉本 秀信 | 出作 595-4 | 989-3177 |
| 神崎 | 高石 勤 | 神崎 308-5 | 984-5992 |
| 鶴吉 | 大政 邦和 | 鶴吉 590-1 | 985-1371 |
| 横田 | ◎徳本 直之 | 横田 654-3 | 984-2118 |
| 大溝 | 栗原 傳 | 大溝 209-2 | 984-1759 |
| 永田 | 門田 耕三 | 永田 194-4 | 985-3456 |
| 東古泉 | 三好 安雄 | 東古泉 250-3 | 984-4162 |
| 大間 | 叶田 弘一 | 大間 510-2 | 985-1801 |
| 上高柳 | ◎杉 正信 | 上高柳 211-2 | 984-0053 |
| 恵久美 | 大西 淳弘 | 恵久美 521 | 984-1253 |
| 昌農内 | 木戸三千年 | 昌農内 379-1 | 984-2216 |
| 西高柳 | 榎岡 幹郎 | 西高柳 329-6 | 985-1947 |
| 西古泉 | 岡見 輝彦 | 西古泉 584-5 | 984-1659 |
| 〃 | 大政 久男 | 西古泉 187 | 985-1908 |
| 北川原 | 茂川 明和 | 北川原 72-1 | 984-1951 |
| 塩屋 | 戒田 一久 | 北川原 1471 | 984-2201 |



被災前後の写真など紹介 「東北の“大津波”空から見た被災地」写真展

東日本大震災の被災地を空から撮影した写真展が8月2日から5日まで、松前総合文化センターで開催されました。この写真展は、被災地の復興に取り組む東北建設協会と松前町などが防災意識を高めてもらおうと開いたもので、会場には、津波被害を受ける前と後の被災地3県の港や住宅街の様子などを撮影した約80枚の写真が展示されました。

岩手県陸前高田市の写真では、松林の名勝「高田松原」が消失しているのがくっきりと分かるなど、訪れた人は被害の甚大さについて理解を深めていました。

関連イベントとして、5日には講演会があり、石巻市役所雄勝総合支所次長の千葉茂さんが被災地の状況について話しました。千葉さんは「東北の大津波を語り継ぐ」と題し、スライドを使って分かりやすく講演。「風化させないためには、学校での防災教育の充実、住民の組織化・訓練、企業での対応が重要だと思う」とアドバイス。参加者はメモを取るなどして熱心に聞き入っていました。

夫婦で参加した村上正信さんは「想定を過信せず、より早く、より高く逃げるにつきと感じた。今の社会では難しいかもしれないが、町内会など組織での意識づけが重要だと思う」と話していました。



①写真展には子どもから高齢者まで大勢の人が訪れました。被災前後の写真を上下に並べて展示 ②上が被災前の陸前高田市高田松原。下が被災後 ③5日の講演会の様子



④(株)龍宮堂で珍味の工場を見学する知事 ⑤庁舎で開かれた意見交換 ⑥(株)ジェイプラント大間農場では「ひげにんにく」の栽培方法を視察

松前で知事が住民と意見交換 知事とみんなの愛顔でトーク

地域の意見や要望を県政に反映させようと、中村時広知事が直接出向いて、現地視察などを交えながら住民と意見交換する「知事とみんなの愛顔(えがお)でトーク」が7月29日、松前町で開かれました。

現地視察では、ギノーみそ(株)、(株)ジェイプラント大間農場、(株)龍宮堂、愛媛県警察学校、(株)世起、大和エンジニアリング(株)を訪問。知事は「こうした地域の高い技術力に県が目目してアピールできるようにしたい」と話していました。

視察後、松前町庁舎で行われた集会では、松山、伊予、松前の3市町の農林水産業やまちづくり活動に携わる住民17人と意見交換。県産品のPR方法や担い手不足・鳥獣被害といった農業が抱える不安への対策などを話し合いました。

